

● 土佐市ドラゴンバスにおける「高齢者向け無償バス乗車証」デジタル化実証実験の開始について ～地域金融機関によるDX支援で、持続可能な地域公共交通モデルを構築～

各 位

令和8年2月20日

高知信用金庫（理事長 山崎 久留美）は土佐市が運営する公共交通「ドラゴンバス」において開始される高齢者向けバス無償化事業に関し、デジタル技術を活用した乗車証システムの実証実験を、土佐市（市長 板原 啓文）と連携して実施いたします。

本事業は、土佐市と高知信用金庫の連携協定に基づき、当金庫の「地域デジタル化支援事業」の一環として取り組むものです。また、地域通貨システムを担う株式会社フィノバレーと技術連携し、三者協業により推進いたします。

■ 運用開始日

令和8年3月16日（月）ドラゴンバスで実用開始

■ 事業概要

土佐市では、高齢者の外出支援および移動手段確保を目的として、ドラゴンバスの無償化を新たに開始します。これにあわせて、高齢者向けバス無償乗車証をデジタル化し、以下の仕組みを導入します。

● デジタル乗車証の仕組み

- ・ 高齢者にデジタル無償乗車証（QRコード付カード）を発行
- ・ バスの「入口」「降り口」に新たに読み取り装置を設置
- ・ 乗降時にQRコードをかざす（タッチ）ことで認証
- ・ 乗降データを自動取得

これにより、紙の証明書確認や目視対応を不要とし、スムーズで正確な乗降管理を実現します。

■ 実証実験の目的

本実証実験では以下の検証を行います。

1. 高齢者の利便性向上
2. 乗降データの可視化
3. 公共交通の最適化に向けたデータ活用可能性
4. デジタル決済導入への拡張性検証

将来的には、通常運賃の支払いについてもデジタル化を見据え、地域交通と地域通貨の連携による新たな決済モデル構築を目指します。

■ 社会的意義と地域への貢献

本事業は、単なるバス無償化施策にとどまりません。

①高齢者の外出促進と健康増進

- ・ 移動機会の拡大による社会参加促進
- ・ 買い物・通院・交流機会の増加
- ・ フレイル予防・孤立防止

②持続可能な地域公共交通の構築

- ・ 乗降データに基づく路線・便数最適化
- ・ 利用実態に応じた政策判断
- ・ 補助金の効果検証の高度化

③地域DXの推進

- ・ 金融機関によるデジタル導入支援モデル確立
- ・ 行政×金融×民間企業の三位一体連携
- ・ 将来的な地域通貨・キャッシュレス連携基盤整備

④地域経済循環への波及効果

将来的に地域通貨との連携が実現すれば、交通利用と地域消費が結びつくことで、地域内経済循環の強化が期待されます。

■ 高知信用金庫の役割

当金庫は、本実証実験において

- ・ デジタル化支援・事業設計支援
- ・ 実証運用サポート
- ・ データ活用・分析支援

を担います。

地域金融機関として、資金供給のみならず、地域課題を解決する“伴走型DX支援”を実践いたします。

■ 今後の展望

本実証実験を通じて得られるデータ・知見を活用し、

- ・ 高齢者施策の高度化
- ・ 地域公共交通の再設計
- ・ 通常運賃のデジタル決済化
- ・ 地域通貨との連携モデル構築

へと発展させ、全国の地方都市に展開可能なモデル構築を目指します。

お問合せ先：高知信用金庫 業務推進本部 担当＝杉本・古田

電話：088-882-2525

以上